

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成18年11月16日(2006.11.16)

【公表番号】特表2006-505562(P2006-505562A)

【公表日】平成18年2月16日(2006.2.16)

【年通号数】公開・登録公報2006-007

【出願番号】特願2004-544829(P2004-544829)

【国際特許分類】

A 6 1 K	47/32	(2006.01)
A 6 1 K	9/16	(2006.01)
A 6 1 K	31/57	(2006.01)
A 6 1 K	47/28	(2006.01)
A 6 1 K	47/34	(2006.01)
A 6 1 K	47/42	(2006.01)
A 6 1 P	37/02	(2006.01)
A 6 1 K	38/00	(2006.01)
A 6 1 K	38/22	(2006.01)
A 6 1 K	38/24	(2006.01)
A 6 1 K	38/28	(2006.01)

【F I】

A 6 1 K	47/32
A 6 1 K	9/16
A 6 1 K	31/57
A 6 1 K	47/28
A 6 1 K	47/34
A 6 1 K	47/42
A 6 1 P	37/02
A 6 1 K	37/02
A 6 1 K	37/24
A 6 1 K	37/38
A 6 1 K	37/26

【手続補正書】

【提出日】平成18年9月27日(2006.9.27)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

有効量の生物学的に活性な不安定な薬剤を中心に組み込んだ生体適合性ポリマーを含有してなる持続放出組成物(ここで、該不安定な薬剤が少なくとも約2週間の期間放出される)、およびコルチコステロイドを含んでなる医薬組成物。

【請求項2】

コルチコステロイドが、持続放出組成物に同時に組み込まれている、請求項1記載の医薬組成物。

【請求項3】

コルチコステロイドが、第2の生体適合性ポリマーに別個に組み込まれている、請求項

1記載の医薬組成物。

【請求項4】

第2の生体適合性ポリマーが、持続放出組成物の生体適合性ポリマーと同じである、請求項3記載の医薬組成物。

【請求項5】

第2の生体適合性ポリマーが、持続放出組成物の生体適合性ポリマーとは異なる、請求項3記載の医薬組成物。

【請求項6】

コルチコステロイドが、持続放出組成物に内包されていないが持続放出組成物と混ざり合っている、請求項1記載の医薬組成物。

【請求項7】

コルチコステロイドが21-アセトキシブレグネノロン、アルクロメタゾン、アルゲストン、アムシノニド、ベクロメタゾン、ベタメタゾン、ブデソニド、クロロプレドニゾン、クロベタゾール、クロベタゾン、クロコルトロン、クロプレドノール、コルチコステロン、コルチゾン、コルチバゾール、デフラザコート、デソニド、デソキシメタゾン、デキサメタゾン、ジスフロラゾン、ジフルコルトロン、ジフルプレドナート、エノクソロン、フルアザコート、フルクロロニド、フルメタゾン、フルニソリド、フルシノロンアセトニド、フルオシノニド、フルオコルチンブチル、フルコルトロン、フルオロメトロン、酢酸フルペロロン、フルプレドニデンアセテート、フルプレドニソロン、フルランドレノリド、プロピオン酸フルチカゾン、ホルモコルタール、ハルシノニド、ハロベタゾールプロピオン酸塩、ハロメタゾン、酢酸ハロプレドン、ヒドロコルタメート、ヒドロコルチゾン、ロテブレドノールエタボネート、マジブレドン、メドリゾン、メブレドニゾン、メチルブレドニゾロン、モメタゾンフロエート、パラメタゾン、ブレドニカルベート、ブレドニゾロン、ブレドニゾロン25-ジエチルアミノアセテート、リン酸ブレドニゾロンナトリウム、ブレドニゾン、ブレドニバル、ブレドニリデン、リメキゾロン、チクソコルトール、トリアムシノロンアセトニド、トリアムシノロンアセトニド21-酸メチルエステル、トリアムシノロンベネトニド、トリアムシノロンヘキサーセトニド、トリアムシノロンジアセテート、薬学的に許容され得るこれらの混合物、およびこれらの塩から選択される、請求項1記載の医薬組成物。

【請求項8】

コルチコステロイドが、トリアムシノロンアセトニド、トリアムシノロンアセトニド21-酸メチルエステル、トリアムシノロンベネトニド、トリアムシノロンヘキサーセトニド、トリアムシノロンジアセテート、薬学的に許容され得るこれらの混合物から選択される、請求項7記載の医薬組成物。

【請求項9】

持続放出組成物が、約2週間以上の期間にわたる不安定な薬剤の目標放出期間を有する、請求項1記載の医薬組成物。

【請求項10】

目標放出期間が約3週間以上である、請求項9記載の医薬組成物。

【請求項11】

生体適合性ポリマーが、ポリ(ラクチド)、ポリ(グリコリド)、ポリ(ラクチド-コ-グリコリド)、ポリ(乳酸)、ポリ(グリコール酸)、ポリカーボネート、ポリエステルアミド、ポリ酸無水物、ポリ(アミノ酸)、ポリオルトエステル、ポリ(ジオキサン)、ポリ(アルキレンアルキレート)、ポリエチレングリコールとポリオルトエステルのコポリマー、ポリウレタン、そのブレンドおよびそのコポリマーから選択される、請求項1記載の医薬組成物。

【請求項12】

生体適合性ポリマーがポリ(ラクチド-コ-グリコリド)である、請求項11記載の医薬組成物。

【請求項13】

持続放出組成物がマイクロ粒子の形態である、請求項1記載の医薬組成物。

【請求項14】

生物学的に活性な不安定な薬剤がペプチドである、請求項1記載の医薬組成物。

【請求項15】

ペプチドがエキセンディン-4である、請求項14記載の医薬組成物。

【請求項16】

生物学的に活性な不安定な薬剤がタンパク質である、請求項1記載の医薬組成物。

【請求項17】

タンパク質が、免疫グロブリン、抗体、サイトカイン、インターロイキン、インターフェロン、エリスロポエチン、ヌクレアーゼ、腫瘍壊死因子、コロニー刺激因子、インスリン、酵素、腫瘍サプレッサー、血液タンパク質、ホルモン、ワクチン、抗原、血液凝固因子、および成長因子から選択される、請求項16記載の医薬組成物。

【請求項18】

タンパク質がエリスロポエチンである、請求項16記載の医薬組成物。

【請求項19】

タンパク質が卵胞刺激ホルモンである、請求項16記載の医薬組成物。

【請求項20】

タンパク質がインスリンである、請求項16記載の医薬組成物。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0040

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0040】

21 - アセトキシブレグネノロン、アルクロメタゾン、アルゲストン、アムシノニド、ベクロメタゾン、ベタメタゾン、ブデソニド、クロロプレドニゾン、クロベタゾール、クロベタゾン、クロコルトロン、クロプレドノール(Cloprednol)、コルチコステロン、コルチゾン、コルチバゾール、デフラザコート、デソニド、デソキシメタゾン、デキサメタゾン、ジスフロラゾン、ジフルコルトロン、ジフルプレドナート、エノクソロン、フルアザコート(Fluazacort)、フルクロロニド(Flucloronide)、フルメタゾン、フルニソリド、フルシノロンアセトニド(Flucinolone Acetonide)、フルオシノニド、フルオコルチンブチル(Fluocortin Butyl)、フルコルトロン、フルオロメトロン、酢酸フルペロロン、フルプレドニデンアセテート(Fluprednidene Acetate)、フルプレドニゾロン、フルランドレノリド、プロピオン酸フルチカゾン、ホルモコルタール(Formocortisol)、ハルシノニド、ハロベタゾールプロピオン酸塩、ハロメタソン(Halometasone)、酢酸ハロプレドン、ヒドロコルタメート、ヒドロコルチゾン、ロテプレドノールエタボネット、マジプレドン(Mazipredone)、メドリゾン、メプレドニゾン、メチルプレドニゾロン、モメタゾンフロエート、パラメタゾン、プレドニカルベート(Prednicarbate)、プレドニゾロン、プレドニゾロン25-ジエチルアミノアセテート、リン酸プレドニゾロンナトリウム、プレドニゾン、プレドニバル(Prednival)、プレドニリデン、リメキゾロン(Rimexolone)、チクソコルトール(Tixocortol)、トリアムシノロン(あらゆる形態)、例えば、トリアムシノロンアセトニド、トリアムシノロンアセトニド21酸(oic acid)メチルエステル、トリアムシノロンベネトニド(Benetonide)、トリアムシノロンヘキサアセトニド、トリアムシノロンジアセテート、薬学的に許容され得るこれらの混合物、これらの塩、任意の他のこれらの誘導体や類似体。